

令和3年度

施設関係者評価表

社会福祉法人 博乃会

認定こども園 日吉台幼稚園

令和3年度 施設関係者評価表

社会福祉法人 博乃会 認定こども園 日吉台幼稚園

1、本園の教育・保育目標

社会福祉法人博乃会の方針である「知育・体育・徳育」の三本の柱を基に、「頭の良い子に」「心の豊かな子に」「意欲溢れる子に」バランス良く育つよう、教育・保育内容の充実を図る事を目標としている。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

高槻市立日吉台幼稚園が博乃会に移管され、2年目となる為、博乃会の理念や方針を遂行し、今年度は、4歳児、5歳児がサッカー、スイミングの取り組みを実施する事で子ども自身が得意な事を見付け、成長出来るように援助していく。

また、年間を通して、自然や行事の取り組みの中で、子どもたちの感動や驚き、興味や好奇心を持ち、感性の幅を広げ、質を高めていく。

職員間では、毎日、ミーティングを行う事で情報の共有を図り、協力体制を構築し、個々の資質の向上に努めていく。

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取り組み状況
本園の教育・保育課程の編成・実施に関して、職員間の共通理解を図る。	月1回の管理職会議・合同職員会議や年4回の姉妹園との幼児会議を行う中で、教育・保育要領を共通理解し、保育計画の検討、見直しを行い、計画通り、進めていけるようにしている。
認定こども園の状況をふまえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。	今年度も引き続き、待機児童解消に向けての取り組みが認定こども園に求められている背景を踏まえ、小規模保育園の設置や園舎建て替えに向け話し合いを行っている。また、給食の提供や午睡等、すべてを幼稚園で行えるように取り組みを進めていく。 コロナウイルス感染症対策をする中で、行事への取り組みに対しては、新たな取り組みを視野に入れて、進めていく。
教育・保育の質の向上のために、園内外研修を充実させる。	研修計画を立て、定期的実施している。 ■心肺蘇生法、エピペン、SIDS研修 ■人権研修 ■キャリアアップ研修 ■栄養士研修
保護者のニーズの把握に努め、要望や苦情に適切な対応を図る。	年1回の個人懇談を実施し、園での子どもの様子を伝えたり、家庭での様子を伺ったりする中で、子どもの成長に繋がるよう相互理解を深めている。 また、異年齢児の交流の中で思いやりの気持ちや年上の友だちへの憧れの気持ちを育めるよう日々の保育で実践していくように取り組んでいる。

職員の指導能力向上を図る。	各種研修に参加し、学んだ事を全職員で共有出来るよう、園内研修を行い、全職員が専門分野への知識の向上が出来るように努めている。毎日のミーティングで子どもの様子、又は保護者からの意見・要望について、報告・連絡・相談の場を設けて情報を全員が共有する環境を作っている。
園児に接する時の基本姿勢を周知徹底する。	子どもの目線に立ち、丁寧に受け応えをする事を基本とし、常に子どもの行動に目を向け、一人一人が成長に繋がるよう適切な対応を心掛けていくよう努めていく。
食育に関する実践を充実させる。	子どもたちに食への関心が持てるよう、月1回の食育を実地し、給食では、旬の食材を生かし、季節を感じる事が出来るよう献立を工夫している。家庭に対し、献立のみではなく健康や栄養情報の知識や食事作りのアドバイスとして、希望者には人気メニューのレシピを配布している。
本園の情報を発信する。	本園の教育方針や取り組み状況を園だよりや掲示、その他のプリントで情報発信している。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大予防の為、様々な行事を変則的に実施した。実施出来なかった行事もあったが、子どもたちへの楽しい思いで作りとし、様々なゲームや遊びを取り入れたお楽しみ会をしたり、製作展を保護者の方に密を防ぐ対策を講じながら観に来て頂いたりする事が出来た。保護者参加が出来なかった行事に対しては、その取り組みの様子をビデオで撮影をして記録に残し、子どもたちの日頃の成果を披露する事が出来た。保護者には、DVDにて取り組みの様子を見てもらった。保護者の感想として、子どもたちがいきいきと取り組む姿を見る事が出来、良かったという感想を頂いた。

また、年間を通して、戸外での活動を多く取り入れた事で、体力の向上にも繋がり、感染症に罹ることなく、元気に過ごせているという言葉も頂いた。

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保護者への情報提供とより正確な要望把握	保護者との個人懇談を通して一層の情報収集を充実していくとともに、行事等についても意見聴取をする。当園の教育方針に則りつつも、子育て中の保護者が期待するところを把握し、園を取り巻く環境や子どもの実態に即した新たな指導計画の編成に取り組んでいく。
感染症予防対策の向上	感染症予防対策として、保育室のこまめな換気や消毒、手洗い・うがいの方法を丁寧に指導し、食事や午睡時にソーシャルディスタンスを取るよう努めている。
自然災害時の危機管理体制の構築	非常時の危機管理について、子どもの引き渡し方法を含めたマニュアルを作成し定期的に職員間で確認を行う。
安全管理の向上	遊具の点検及び園舎・園庭などに危険な箇所がないか日頃から管理に努めている。(毎日、点検記録をつけて管理していく)

6、学校関係者の評価

法人の教育・保育案を取り入れながら、様々な遊びの中で子どもが主体となって活動し、心身ともに成長出来るように年間を通して計画し実践している。また、現状をふまえ、徹底した密を避ける環境作りや子どもたちへの手洗い・うがいの丁寧な指導の実践が見られる。

以上のように日々の保育を工夫し、取り組む姿勢が認められる為、特に指摘する事項はない。